

# 都市病、都市と地方の二元格差と 公的サービスの「コスト病」 ——政治経済学の視点

経済学部  
経済学科  
講師

高 晨曦



## 研究シーズの紹介

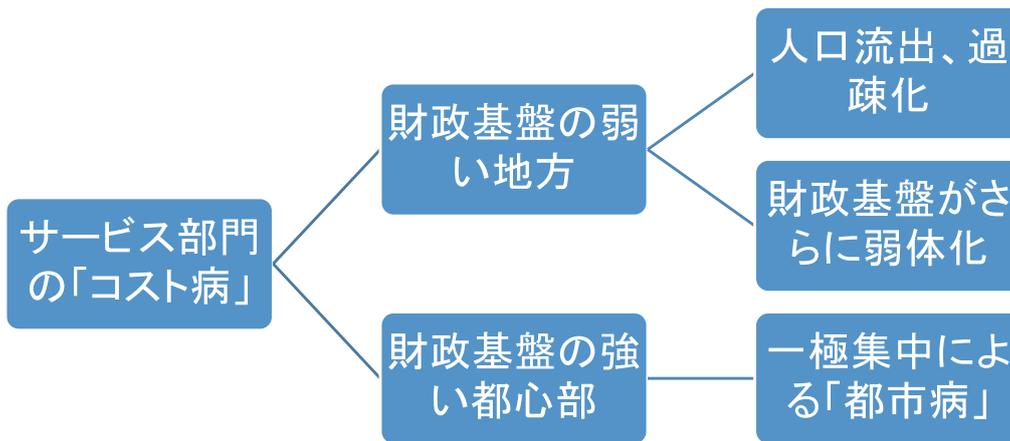
本研究は、「サービス経済」および「経済の金融化」の進行を背景に、主要国家においてますます深刻になる都市と地方の二元格差（経済社会格差と人口の流出）の経済的原因を、公的サービス供与の「コスト病」に求める。

労働過程と技術革新の経済的特徴として、資本の有機構成の高い公的サービスの供与部門の労働生産性の上昇

は製造部門より緩慢である。結果、同じ質の公的サービスを維持するための相対費用は持続的に上昇する。この費用は財政基盤がより脆弱な地方を逼迫し、公的サービスの質の維持を困難にする。結果、中央政府が有効な再分配策を打たないかぎり、人口はますます良質な公的サービスを安定に供与できる都心部に流出してしまう。

**point** 公的サービスの「コスト病」

- 公的サービスの供与部門の労働生産性の上昇が製造部門より遥かに低い。
- 良質な公的サービス供与を維持するための相対費用の上昇が激しい。



## 期待される活用シーン

<p>● 渋滞、環境汚染、住み環境の劣化、貧富の格差（貧民街）などの「都市病」</p>		<p>→</p>	<p>合理的な都市計画による都心機能の分散 積極的な再分配策と社会福祉の健全化</p>	<p>→</p>	
<p>● 公的サービスの供給不足、雇用機会の減少による人口流出、過疎化および財政基盤の脆弱化</p>		<p>→</p>	<p>中央財政の再分配による公的サービス供与の補強 付加価値の高い産業の誘致</p>	<p>→</p>	